

平成 26 年度

出入管理機器委員会活動報告書

平成 27 年 6 月



公益社団法人 日本防犯設備協会
出入管理機器委員会

はじめに

先般、国土交通省が発表している「建築工事受注動態統計調査における受注高の推移」の速報値の指標を眺めていたところ、平成27年度1月の元請け受注額は、対前年比22.1%増加というデータがあった。

資材高騰・円安・人手不足等マイナス要因もあるが、着実に右肩上がりの推移を示しているのは当協会の属する業界にとっては先が見えてきているといえるのではないかと思う。

さらに、今年度の活動で「スマートハウス」「無線技術」という従来の技術と新しい技術の組み合せによる今までにはない取り組みをしている施設・企業の見学を行い、新しいソリューションが生まれてくるのではないかという予感を感じた。

反面、少子化の影響により2050年には人口が8千万人程度に減少すると言われており、ピーク時から3割減ということは、長い目で見た場合は上昇基調が続くとは言いがたいという判断もされる。

一方、オフィスビルのストック（既設）は国内で66万棟あり、そのうち63万棟（98%）は1万平米以下であり、さらに築20年以上経過しているビルは40万棟とも言われており、改修は待ったなしの状態である。

ビル改修時にはセキュリティ設備の導入は必須であるが、ビルを所有しているオーナー様、ビル管理会社様はどのようなセキュリティ設備を設置したらよいのか調べる術を持っていないと言われている。

当委員会で進めた、協会HPに「施設セキュリティのご紹介」というページには、どのような建物にどのような設備を導入したらよいか、さらにはどのメーカーが取り扱っているのかを「見える化」することができた。

セキュリティ設備の知識を少しでも多くの人に見ていただける環境を作ることができたことは、本協会の目指す、安全で信頼できる防犯設備等の普及を図ることにもつながると考えている。

最後に、日々の業務で忙殺されている当委員会委員の方々には、毎月委員会に参加して頂き、施設見学・レポート作成等々の活動に対し、感謝の思いと今後のさらなる委員会活動の発展の協力に期待したい。

平成27年6月

公益社団法人 日本防犯設備協会
出入管理機器委員会
委員長 田村和寛

出入管理機器委員会 委員名簿（敬称略）

構成	氏名	会社名	所属
委員長	田村 和寛	株式会社アート	営業本部
副委員長	中島 浩介	美和ロック株式会社	商品企画部
委員	小宮 隆昭	株式会社日立製作所	インフラシステム社 都市・電機ソリューション事業部
委員	齊藤 猛	株式会社セノン	東京システム支社 技術部
委員	七里藤喜男	オプテックス株式会社	国内営業本部 ソリューション 営業部 マーケティング1課
委員	曾我 淳大	日本カバ株式会社	アクセスコントロール営業部 東日本チーム
委員	橋本 育昌	パナソニックシステムネットワークス 株式会社	セキュリティシステム事業部 電気技術グループ
委員	藤原 真	株式会社ゴール	東京支店
委員	山垣内 進	株式会社クマヒラ	企画本部企画部
委員	横田 和典	三菱電機株式会社	トータルセキュリティ事業推進部
事務局	友廣 一成 伊藤 広	公益社団法人 日本防犯設備協会	

目 次

はじめに	1
出入管理委員会 委員名簿	2
目次	3
1. 「施設セキュリティのご紹介」 W e b サイト開設	4
1-1 背景	4
1-2 W e b サイト概要	4
2. 施設見学	
2-1 ローム株式会社殿訪問	5
2-2 オプテックス株式会社本社訪問	7
2-3 L I X I L U ² -HOME訪問	14
3. 総括	
3-1 活動総括	20
3-2 来期に向けて	20

1. 「施設セキュリティのご紹介」 Web サイト開設

出入管理の目的に応じて機器を選定し、取扱い企業の製品Webサイトに直接リンクできる「施設セキュリティのご紹介」Webサイトを当協会ホームページに開設した。

1-1 背景

出入管理機器導入にあたっての1つのハードルとして、導入を検討する人が「どこに問い合わせすれば良いか解らない」といった状況があった。

一般の人にとって出入管理機器はまだ馴染みが薄いものであり、どのような企業がどのような製品を取り扱っているかはあまり知られていない。取扱い企業が中小企業の場合そもそも企業名が解らないし、大企業の場合はどこに問い合わせれば良いか解らないといった状況である。

様々な企業が参画している当協会であれば、企業の枠組みを超えた情報発信が行えるのではないかということで、今回のWebサイトを開設した。

1-2 Webサイト概要

利用シーンごとに機器を紹介することで、導入を検討する人たちが自身の用途に最適な機器を選定し、そのまま取扱い企業の製品Webサイトにダイレクトにリンクできるようにした。

サイトURL : http://www.ssaj.or.jp/security_office.html



利用シーンに応じた機器の選択

機器の概要と製品 Web サイトへのリンク

本Webサイトを維持していくに当たり、以下のルールで運用することとした。

- ①コンテンツ掲載は出入管理機器委員会会員に限定する。(継続的にメンテが必要なため)
- ②コンテンツの変更は随時事務局で受け付けて修正を行う。
- ③全体の見直しは毎年10月の委員会で行う。
- ④委員会へ新規加入した当委員会委員でコンテンツ掲載希望の場合は、コンテンツを事務局で受け付け、テストサイトに掲載し、委員会にて確認後正式に公式Webサイトに掲載する。
- ⑤委員会を退会する場合は10月時点で掲載コンテンツを削除する。(メンテ不可のため)

※上記にて運用を行っていくが、実際の運用に則さない場合は随時見直しを図っていく。

2. 施設見学

2-1 ローム株式会社殿訪問

ローム株式会社殿 企業見学会報告書

平成 26 年 11 月 26 日会員 7 名で、ローム株式会社殿の企業見学会を実施しました。

見学会においては、会社概要、事業内容のご紹介、ショールームでの製品紹介を実施して頂き、半導体メーカーとしてのセキュリティやソリューションへの取り組みについてご説明して頂きました。ご多忙中にもかかわらず、懇切に対応していただいた、ローム株式会社宮西課長、他職員の皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

日時	2014 年 11 月 26 日		
場所	ローム株式会社 「ROHM Lighting Square」 京都市下京区塩小路通烏丸西入東塩小路町 579-32 ローム京都駅前ビル		
参加者 (継承略)	No	氏名	所属
	1	田村 和寛	(株) アート
	2	中島 浩介	美和ロック (株)
	3	横田 和典	三菱電機 (株)
	4	橋本 育昌	パナソニックシステムネットワークス (株)
	5	七里 藤喜男	オプテックス (株)
	6	小宮 隆昭	(株) 日立製作所
	7	友廣 一成	公益社団法人 日本防犯設備協会
面談者	ローム (株) 東日本営業第 2 統括 販売促進部 2 課 課長 宮西 崇史様		



1. 展示パネルによる会社概要及び製品のご紹介（1F 展示パネル）

社名の ROHM は、抵抗の R、抵抗を示す単位の Ohm に由来。

半導体やパワーデバイス、モジュールなど、電子デバイスが主力事業で、ヘルス系、介護、センシングデバイス、無線通信モジュール、LED 照明などにも注力されている。



2. ショールーム見学

(1) LED 照明コーナー

ブティック、生鮮売り場、キッチンが再現されており、本物の衣服や食品サンプルで比較展示をされていた。明るさ、色温度による見え方の違いを、実物で見て感じることが出来るデモを体験。LED の照明においても、明るさと色温度の設定が簡単に出来る事が重要である事を実感した。

(2) 住宅照明コーナー

調光機能を持つ照明器具を、スイッチや、タブレット端末で、「食事」「勉強」「くつろぎ」などのシーンに合わせた照度と色温度に変えるデモや、タイムスケジュールで節電する機能を体験。このシステムは、照明器具間の通信は 3 種類の無線(無線 LAN、920MHz 帯特小、EnOcean)を組合せて制御されており、配線レスで家の照明を制御する仕組みとなっていた。また、セキュリティ製品として、電源も電池もいらない EnOcean 無線を利用した窓のクレセント開閉センサーやマグネットセンサーをご紹介いただいた。このセンサーは、電源も配線も不要で窓の開閉をシステムに通知でき、ホームセキュリティに活用できること。



LED 照明コーナー



EnOcean クレセント開閉センサー

3. その他

EnOcean 無線の取り組みについてのご紹介の中で、事例として（株）リクシル殿が住宅 1 棟を利用して様々なセンサーを取り付け、未来住宅の実験を行っており、見学が可能な事をご紹介頂きました。

2-2 オプテックス株式会社本社訪問

オプテックス株式会社殿 企業見学会報告

2014年11月27日、当委員会メンバーが当委員会会社であるオプテックス株式会社殿(以下、オプテックス殿)を訪問し企業見学を実施させて頂きました。

会社概要、事業内容のご紹介を頂き、また、ショールームでセンシング技術を応用した各種防犯センサ自動ドアセンサ、侵入検知システム等を現物を用いてご説明や動作実演を行って頂きました。

ご多忙中にもかかわらず、懇切に対応して頂きましたソリューション営業部 菊田課長、七里様、他社員の皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。



1. 参加メンバー

今回の企業見学会の内容、参加メンバーは以下の通りです。

日時	2014年11月27日（木）10:30～12:30	
場所	オプテックス株式会社 本社 滋賀県大津市雄琴5-8-12 URL : http://www.optex.co.jp	
ご対応者	国内営業本部 ソリューション営業部 菊田 義昭 様 七里 藤喜男 様他	
参加者	氏名	所属
1	田村 和寛	(株)アート
2	中島 浩介	美和ロック(株)
3	小宮 隆昭	(株)日立製作所
4	横田 和典	三菱電機(株)
5	橋本 育昌	パナソニックシステムネットワークス(株)
6	友廣 一成	公益社団法人 日本防犯設備協会



2. 会社概要、事業内容

まず最初に、ソリューション営業部 菅田課長より、オプテックス殿の会社概要および事業内容についてご説明を頂きました。内容は、以下の通りです。

【会社概要】

設立 1979年（昭和54年）5月25日
資本金 27億9,827万円
連結従業員数 1,214名
売上高構成比
センシング関連事業50%、センシング自動ドア関連17%、FA事業20%、その他13%
地域別売上高比率
海外65%（北米11%、ヨーロッパ35%、アジア14%、その他5%）
国内35%
マーケットシェア
センシング関連の世界シェアは、屋外用途40%、屋内用途12%である。

（特徴）

人体検知センサでは、環境変化に対して安定的な検知ができる屋外用途を強みとされています。また、世界12カ国に拠点を構え、約80カ国に製品・サービスを供給し、海外比率が高いことが特徴です。

【事業内容】

企業スローガン『センシング技術で、世界中のひとつに安全・安心・快適を提供しています。』のもと、以下の4つの事業展開をされています。

■センシング事業（防犯関連）

侵入者を検知し、犯罪を事前に抑止する「防犯用センサ、システム」など、高度な安全管理技術で、一般家庭から社会インフラに関わる重要施設まで人々の安全・安心に貢献しています。

■センシング事業（自動ドア関連）

安全でスムーズなドア開閉を実現する「自動ドアセンサ」の分野では国内シェア60%、世界シェア30%。また認証されていない人が認証を受けた人と共に不正に入室することを防ぐ共連れ検出で入退室管理システムに付随するセンサシステムも提供しています。

■センシング事業（照明制御、計測関連、交通関連）

センサとLED照明を組み合わせ、ワンランク上の省エネを実現する「照明制御関連事業」、液体の透明度や物体の表面温度を計測する「計測関連事業」、安全運転の促進に役立つ機器を提供する「交通関連事業」を展開しています。

■FA事業

自動化ラインの品質管理に欠かせない各種産業用センサをはじめ、ものづくりの現場を支える機器を展開しています。

3. ショールーム見学

豊富な商品群が展示されており、ご説明を頂きました。以下、ご説明頂いた商品の一部を紹介します。



【パッシブセンサ】

受動型赤外線人体検知センサを組み込んだパッシブセンサの商品群。天井取り付け/壁面取り付け、屋内/屋外等豊富な品揃えがあります。

*海外、とくに欧州では壁面取り付け型が主流とのこと。



【レザースキャンセンサ】

レーザー光を照射し、対象物の「大きさ」「速度」「センサからの距離」を識別できる高機能センサです。専用ソフトにより自由に検知エリアの構築が可能なため、検知エリアと非検知エリアを明確に分けることができます。



【アクティブセンサ】

赤外線ビームを発射し、そのビームを遮った物体を検出する（受光される赤外線の量の変化を調べる）アクティブセンサです。

短距離から長距離、デザイン性にすぐれた窓際・壁際用まで豊富な品揃えがあります。



【自動ドアセンサ】

マンション、ビル、ホテル、工場で、赤外線をコア技術とした自動ドアセンサは、小さなお子様からお年寄りまでが、自動ドアを安全にご利用できるようにサポートします。



【センサライト・LED調光】

必要なとき、必要な明るさにコントロールできるLED照明調光システムや、人が来たときに自動で点灯するセンサライトは、事業所や駐車場、住宅の省エネ・防犯をサポートします。

*ショッピングセンターの屋上駐車場で夜間常時点灯の水銀灯からセンサLED調光に変更し、最大90%の省エネを実現した事例があります。



【店舗管理システム】

・客数管理システム

店舗経営の指標となる買上率や前年との比較においては、安定した高い計数精度が必要不可欠です。極めて高い計測精度を誇る画像解析（物体形状認識）技術での高速画像処理により人の形状を立体的に把握、追跡することで安定した客数情報を提供します。

・男女年齢層解析システム

具体的なお客様層のセグメント（性別、年齢）を実施可能とし、マーケットインの発想により近づく指標データとして、男女・年齢層推定データをご提供します。

・車両計数センサ

車両計数センサは、赤外線センサを通路の天井部分に設置し、真下を通過する車両を認識・計数するセンサです。

ここからは、オプテックス殿の独自な先端センシング技術を応用した新技術・新商品の展示です。



【3Dセンサ】

立体的に、リアルタイムに、最速 50FPS で 3 次元距離情報を取得する新技術。対象物までの奥行きや高さ、形状、位置関係といった撮像空間内の諸情報を、太陽光や照明環境、設置条件に左右されずに取得することができる 3D センサーです。

* 2008 年 7 月某テレビ番組で、「立体で人を検出する赤外線センサー」として紹介されました。



【客数情報システム】

客数情報システムは、商業施設の入口や通路など、入店客数や来街者数を測定したい箇所の天井部分にスポットライト形状の画像解析型センサを設置して人数を計測するシステムです。

センサの下を通過した人の動きを、独自に開発した画像処理技術によって人を IN・OUT の方向別にカウントします。

集計されたデータは自動的にパソコンの専用ソフトに吸い上げられ、レポート化されます。

*国内では 80% のマーケットシェアを保有しています。



【共連れ画像センサ】

通常の個人認証による入退室管理システムでは、不正侵入を見逃してしまいがちな「共連れ／すれ違い侵入」を検出し、入室阻止や、警告・記録を実現するセンサです。

* 画像処理技術により、周囲の明るさの影響を受けにくく、100(1x)～20,000(1x)までの場所に設置が可能です。

4. おわりに

オプテックス殿本社は、滋賀県大津市の風光明媚な琵琶湖西岸に位置し、メーカーの本社とは思えないデザイン性の高い建物に、首都圏のビルに勤務する我々メンバー全員は感激しました。

高度なセンシング技術をコア・コンピタンスに、事業ドメインを国内から海外へ、屋内から屋外へ拡充されグローバルで高いシェアを確保された事業内容、商品群をお聞きして、アイデアとチャレンジ精神のある会社と感じました。

- ・屋外用侵入検知センサ：世界シェア 40 %、
- ・自動ドアセンサ : 日本シェア 60 %、
- ・人数カウントセンサ : 国内 80 %

2014 年には、経済産業省が実施するグローバルニッチトップ 100 選に選定されました。

また、本社敷地内にフィットネスクラブがあり、社員の方の福利厚生以外に、地域住民の方にも開放されています。社長様が、学生時代にボート部でご活躍されていたこともあり、地元の小中学生を対象にカヌー教室を開催されています。また、CSR 活動としてびわ湖体験学習を実施しており全国から年間 14,000 名以上の学生が参加しています。犯罪を未然に防止する防犯センサの開発・製造をされ、かつ健全な若者の育成等の社会貢献もされています。

オプテックス殿の企業理念を感じる見学会でした。



本社前の湖畔には、びわ湖体験学習用のカヌーが置かれています

LIXIL U²-Home 視察報告書

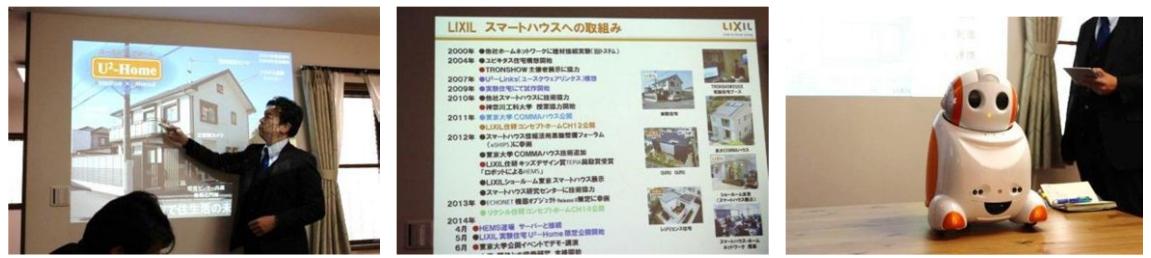
平成 26 年 12 月 20 日 会員 7 名で、株式会社 LIXIL 殿の実験住宅 U²-Home (ユースクウェアホーム) を視察しました。会社概要、事業内容のご紹介、実験住宅の機能紹介を実施して頂き、未来住宅への取り組みについて下記の通りご説明して頂きました。ご多忙中にもかかわらず、懇切に対応していただいた、LIXIL 株式会社高田グループリーダー林様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

日時	2014 年 12 月 20 日 13:30~15:00		
場所	LIXIL 実験住宅 U ² -Home (千葉県野田市川間)		
参加者 (継承略)	No	氏名	所属
	1	田村 和寛	(株) アート
	2	中島 浩介	美和ロック (株)
	3	山垣内 進	(株) クマヒラ
	4	曾我 淳大	日本カバ (株)
	5	西川 靖二	日本防犯設備協会
	6	友廣 一成	日本防犯設備協会
面談者	LIXIL 総合研究所 新事業創造部 情報社会研究 G グループリーダー 高田様 LIXIL 総合研究所 新事業創造部 住生活情報化 PF 検討 PJ		

1. プレゼンテーション

(1) スライドによる会社概要及び U²-Home の紹介

U²-Home は、人・モノ・家・社会が情報で結ばれた住環境の未来を体感する実験住宅として設立された。名称の U²はユビキタスとユニバーサルをかけたもの。スマートハウスの取り組みは2000年に開始し、2009年に実験住宅として U²-Home の試作が開始された。現在では HEMS 道場の実験場としての提供、EnOcean (無線通信規格) メンバーの視察対応等を行っている。



(2) U²-Home 見学

住宅全体に200個を超えるセンサーを配置、収集した情報から結果を予測し、居住者へのアナウンス、自動制御する仕組みとなっている。様々な年齢層が「住む」場合は、全て自動制御する事が必ずしも良いとは考えておらず、あえてアナウンスに留める事も実施している。

情報は「どんな時に、何をしたら、どうなった」の3点を収集することで結果を予測する手法を取っている。一般企業では「どうなった」を主眼に情報収集する傾向があるが、結果予測する上ではこの3点が必要と考えている。



明るさ、人の動き、赤外線の受光部等を配置しており、屋外にも風向き、温湿度等のセンサーがある。全ての蛇口には省エネルギーの観点で水流センサーを付けている。住宅の消費エネルギー全体の30%はお湯を作る為に使われており、お湯の無駄遣いを見える化する為である。ドア・シャッターには開閉センサーを付けている。また、全ての部屋にタッチパネル (iPAD) をついている。屋外には集音マイクを設置し、屋内へ屋外の音を入れるようにしている。現在の住宅は気密住宅であり、屋外の音が聞こえない。昔は雨降り等が音を聞くことで認知できていた事を気密住宅で再現する試み。

① 門

主に屋外環境センサーを設置している。スピーカーも設置し、ウェルカムミュージックを流すことができる。門はスマートホーム建材として今後重要だと考えている。
門は門灯・インターホンが設備され、通電環境があり電気設備が配置しやすい為である。
リフォームも実施しやすい。



門灯とスピーカー

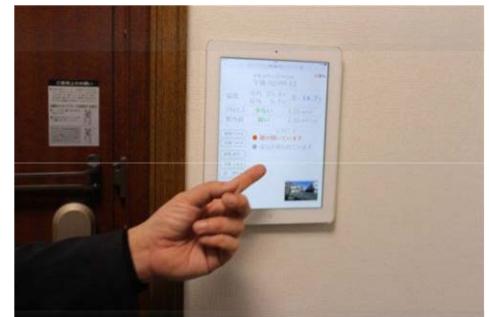
② 庭

赤外線ビームセンサーを設置し、外出中に反応すると警戒レベルが上がり、警報音と共に自動的にシャッターが閉じる制御を行っている。誤報とならぬよう、玄関ドアが解錠状態の時は警報にならない等の条件付けを行っている。



③ 玄関

玄関に配置したタッチパネルで全ての照明等が操作可能になっている。帰宅時、まとめて明かりをつける為。



④ トイレ

スマートフォンに対応したトイレ。個人毎に便座の設定が変わり、シャワートイレの位置や温度が個人の好みに合わせられるようになっている。音楽も聴けるようになっている。また、トイレ内にも タッチパネルを配置し、インターホン対応ができるようになっている。



トイレはヒートショック（温度差による体調急変）が起こりやすい場所でもあり、空調制御により、室内との温度差が少なくなるようにしている。タッチパネルの緊急ボタンを押下すると、全てのタッチパネルに緊急表示されるようになっている。

⑤ 脱衣所

脱衣所前のタッチパネルに人の有無を表示し、うかつに入室しない配慮をしている。小型の蓄電池を設置し、停電時に最低限の電力供給をするようにしている（テレビ、冷蔵庫、ダウンライト、トイレ）。また、風呂との出入りを検知できるセンサーを研究中である（今は赤外線ビームセンサによる方向検知制御）。センサーを上下2箇所に配置し、大人と子供を分けて検知できるようにしている。

⑥ キッチン

水使用の有無をタッチパネルに表示し、使用量の多さを色で表示している。主婦層には人気の機能となっている。
棚の全てに開閉センサーを付け、使い方を分析しようと
している。将来は収納アドバイスへの活用を考えている。

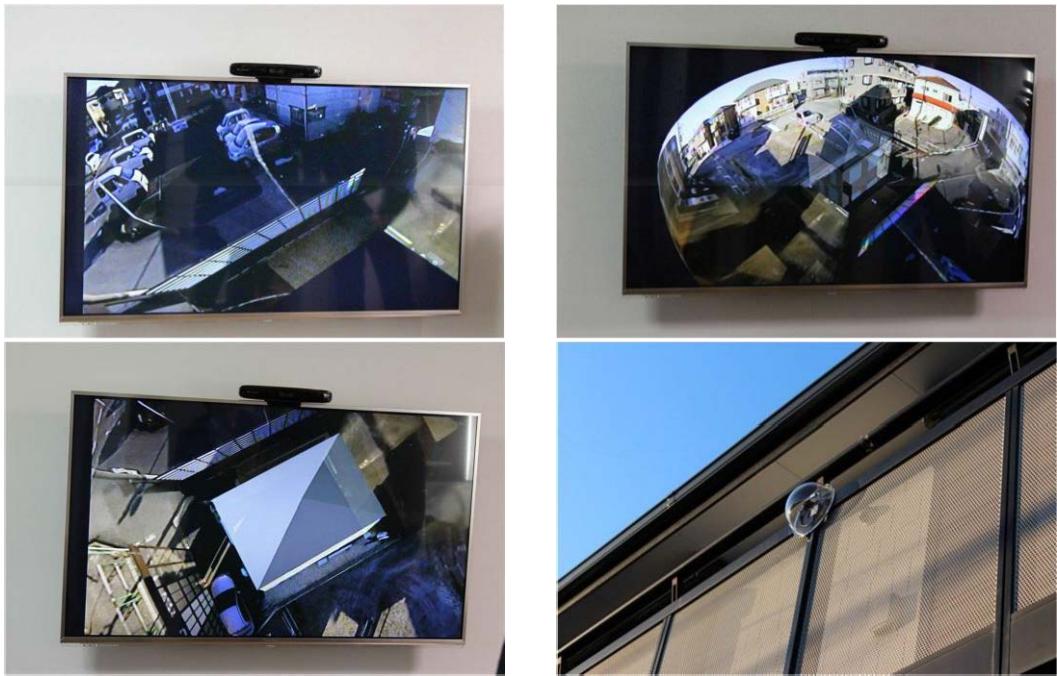


⑦ 住宅モニター

住宅内外の各種センサー状態がまとめて見れるようになっている。各部屋の温湿度、人の有無、屋外の風向きから明るさ、大気圧、紫外線量まで分かれるようになっている。



また、広角カメラを家の4辺に配置し、アラウンドビュー画面表示ができるようになっている。自動車にも実用化されているが、富士通の技術を使っている。



⑧ 換気窓

外の風向きを検知し、自動で換気窓の開閉を制御できるようになっている。風の無い場合は、空気の温度差を使った重量換気(暖かい空気が上に、冷たい空気が下に逃げる)を行っている。

⑨ 2階実験室

2階は実験室として HEMS 道場など様々な団体に開放している。時間帯によって照明の明るさを変える等の試みがされている。

⑩ 2階 ICT 実験室

U²-Home 内に設置した実機を全て集めた開発環境を備えている。この部屋で各種開発を行っている。

⑪ ミニチュア実験住宅

U²-Home と同じセンサーを配置したミニチュアの住宅を作り、家同士がネットワーク接続されるとどうなるのか・何ができるのかを実験している。親子別住宅を想定し、センサーにより生活異常を検知すると、子の家に色で警告するといった試みがなされていた。

(3) まとめ

住宅業界はエネルギー設備も搭載し、行きつくした感があり、「住みやすさ」に原点回帰しつつある。将来は EnOcean といった無電源でセンシングできる機器に期待している。様々な試みをしているが、LIXIL はパッシブファースト「まず家をしっかり作る」その上でかしこく暮らす要素としてセンサリング、見える化していく形で考えている。

3. 総括

3-1 活動総括

「施設セキュリティのご紹介」Webサイト開設にあたっては、会員企業の協力によりさまざまな製品やシステムを掲載することができた。現在委員会には鍵メーカー、センサーメーカー、制御機器メーカー、システムインテグレーター、その他多様な企業に参加頂いており、シーンに応じたひと通りの製品をご紹介できたのではないかと思う。

出入管理に関しては一定の認知はあり、大企業ではある程度普及していると言えるが、一般の人にはまだまだなじみが薄い。中小企業においては必要性は感じていても、コスト的な問題からなかなか導入に踏み切れない、あるいは導入したいがどうすれば良いか良く解らないといった状況が続いている。そういう方々にも用途、規模によってさまざまな機器が用意されていることをお伝えし、出入管理機器の普及を図っていきたい。

今後はさらにコンテンツの拡充を図り、当協会から情報発信を行っていくことで防犯設備全体の普及と防犯意識の向上に繋げていければと考えている。

各施設・企業見学では、BEMS、HEMS、スマートハウスなどについて最新技術やトレンドを知ることができた。無線技術の進歩により、今まで接続できなかった、あるいは関係がなかったもの同士が相互に通信できるようになってきている。今後は業界の枠組みを超えて、様々なシステム連携が大きく進歩していくのかもしれない。そうなってきた際、セキュリティ業界からは何を発信できるのか、他の分野に対しどのような貢献ができるのかといった視点も必要になってくると考えさせられた。今後は防犯に関する専門知識を深めていくと同時に、他分野への知見も広めていく必要性がある。

3-2 来期に向けて

今期の活動結果を踏まえ、来期は当協会から防犯に関する情報発信を行っていくとともに、他業界との交流・意見交換を図っていくということを活動テーマとして考えている。例えば他の業界団体と意見交換を行うことで、我々が今まで見えていなかった問題に気付くかもしれないし、他業界の困りごとを我々が解決できることに気付くかもしれない。

上記のような交流がどの程度できるかは解らないが、事務局および当委員会委員の方々と協力し活発な活動を行っていきたい。

平成27年6月

公益社団法人 日本防犯設備協会
出入管理機器委員会
副委員長 中島浩介

以上